

匠 瑳

114

探訪

水戸藩士の墓

吉崎を歩く

1868(明治元)年11月19日(旧暦の10月6日)、八日市場村周辺は、突然恐怖感に包まれました。

水戸藩の天狗党と諸生党の最後の戦い「八日市場・松山戦争」がこの日に繰り広げられたのです。諸生党の家老・市川三左衛門を中心とする市川勢は、同年3月、総勢500人以上で水戸を脱走し、福島・会津、新潟・長岡などで新政府軍と戦い、佐渡に渡ったのち再び新潟、会津を転戦しました。11月14日(旧暦の10月1日)の水戸弘道館の戦いの後、銚子を経て八日市場にきた市川勢は、追討する天

狗党に壊滅されました。市川勢の戦死者慰霊は、1966(昭和41)年秋に「脱走塚百年祭」が、それから40年後の平成20年10月6日に「水戸藩国事殉難者慰霊祭」が中台区(匠瑳地区)で行われました。

この慰霊祭の計画を知らされたのを機に再調査をしてきた折、新たな情報もたらされました。それは、吉崎区(共興地区)の共同墓地に「水戸藩士の墓」があるというものでした。

高さ50cmほどの墓石の表面に「塚原萬治郎之墓」と書かれ、裏面に刻まれた内容が実に興味深いものでした。「氏(塚原)は水戸藩士にして、明治元年3月首領市川三左衛門と同士90余人と水戸城を脱し、会津城に入り官軍(新政府軍)に抗し利あらず、下総銚子に至

り再興を謀らんと同所にて戦い、大疵を受け、この地(吉崎村)に止まり世を送る」とあり、各地を転戦してきた市川勢の行動を伝えています。塚原は明治34年1月に亡くなり、大正8年10月6日に墓石を建てた鈴木仙太郎との関係など不明な点が残るものの、これまで伝えられてきた内容と合致しています。

銚子から飯岡、そして海岸線を西に進んだ市川勢は、神宮寺から大塚原(ともに旭市)、吉崎村を経て八日市場・福善寺でいったん休んだのち、松山・中台での戦いとなりました。市川勢の戦死者は名前が分かっている者が30人、行方不明者は40人とも50人ともいわれています。

戦いの後4日間にわたり八日市場村を拠点に市川勢の探索などにあたった天狗党の行動は、「誠に傍若無人のふるまいなり、村つぶれそうろう様子なり」と伝わっています。「八日市場・松山戦争」から間もなく150年を迎えることになりました。

(市文化財審議会委員)

依知川雅一

問 秘書課広報聴班

☎73・0080



吉崎区にある水戸藩士・塚原萬治郎の墓